

2026年度 国際関係学部

帰国生徒(外国学校就学経験者)入学試験

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	日程	志願者数	最終合格者数
アメリカン大学・立命館大学国際連携学科	1期	3	3
	2期	8	7
	計	11	10

(2) 本入学試験の目的

国際関係学部アメリカン大学・立命館大学国際連携学科は、グローバル・国際社会における幅広い課題を、グローバル国際関係学の観点から適切に理解し、その課題解決や平和的かつ持続可能な発展に貢献することのできる人材の育成を目的としています。それらの事象に関心を持ち、日米双方での学修を行って、将来、行政・経済・文化等さまざまな分野で国際的視野を持って働くことに強い意欲を持つ生徒の受験を期待します。

2. 試験内容

(1) 書類選考

出願書類を総合的に評価しました。

出願書類として、以下のエッセイの執筆を出題しました。

Please describe a subject or field you wish to study within the Joint Degree Program, giving reasons why, and describing any connections this subject has to your previous experiences and activities. (within 600 words)

(2) 個人面接

英語による面接試験（オンライン）を実施しました。

3. 出題の意図

(1) 書類選考

上記で示したエッセイを受験生に出題した意図は次の2点です。

1. 受験生が本学科で学ぶことに高い意欲を持ち、本学科の育成目標やカリキュラムを理解して出願しているのかを判断するため。
2. 受験生が現代の国際社会の諸問題への関心を有しているか、必要な基礎知識を有しているか、大学で学ぶために必要な基礎学力、論理的思考力、英語での文章作成能力を有しているかを判断するため。

(2) 個人面接

英語による面接試験では、受験生に、①立命館大学とアメリカン大学で学ぶための十分な英語運用能力（特に会話能力）があるか、②自らが執筆したエッセイの内容について、口頭で論理的に説明し、議論できる基礎学力およびコミュニケーション能力があるか、③国際社会の現代的諸問題について、様々な文化的背景を持つ学生と共に学び、多角的に捉える力を養い、自らを高めたという強い意欲があるか、を確かめることを意図して行いました。

4. 評価のポイント

(1) 書類選考

書類選考では、提出された出願書類（英語外部資格試験のスコア、成績証明書、エッセイ）を総合的に評価しました。受験生が本学科での学習に必要なとされている基礎学力と英語運用能力を有しているかについて、英語外部資格試験や成績証明書にもとづいて評価しました。エッセイについては以下の観点を中心に評価を行いました。

- ①志望理由が明確かつ具体的であるか
- ②自らの体験や動機を大学での学びに関連付けて論じているか
- ③現代国際社会の諸問題をどのように理解しているか、多角的に捉えているか
- ④英語で論理的に文章を構成できているか

(2) 個人面接

英語での面接を通じて、以下の7点について評価しました。

- ①志望動機が明確かつ具体的であるか。
- ②英語による専門科目の履修に十分な英語運用能力があるか。
- ③面接者の質問を正確に理解し、意見を論理的に述べる力があるか。
- ④大学での学びを支える基礎学力があるか。
- ⑤国際社会で将来活躍できるような適応能力が認められるか。
- ⑥日米両国を横断して多文化が融合する本学科特有の「学びのコミュニティ」において文化の異なる学生と協働して学習に取り組むことができるか。
- ⑦多くの課題をこなし、本学科を修了できる力量があるか。

5. 解答状況

(1) 書類選考

英語外部資格試験のスコア要件を満たす、一定基準以上の英語運用能力がある受験生が出願しました。また、エッセイでは、帰国生徒である受験生の多くが、自身の海外での体験や経験を交えて論述していました。国際社会で数年間生活し、学校や日常生活を通じて気づいた国際社会の諸問題および自身の関心について、具体例を交えつつ論じられていました。

(2) 個人面接

受験生のほとんどが海外での滞在経験（留学を含む）があり、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことに意義を見出し、アメリカと日本の両国でさまざまな国からの留学生と切磋琢磨する機会を求めている点が特徴的でした。また、アメリカン大学とのジョイント・ディグリー・プログラムの特徴やねらいを理解し、留学経験を含むこれまでの経験にもとづいた問題関心と将来の目標・ビジョンについて、英語で説明することもできていました。現時点ではまだアメリカン大学での履修に必要な英語スコアには到達していない受験生についても、エッセイを見る限り、継続して学習することで十分条件を満たせると期待できました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

成績証明書については全教科について丁寧に審査します。したがって英語科目だけでなく、学校での日頃の学習を大切に、基礎学力を養ってください。TOEFL iBT® やIELTSをはじめとする英語外部資格試験スコアも重要な判断材料となります。早い段階でこれらの試験の準備を始め、余裕をもって受験しておくことをおすすめします。なお、入試の出願条件として課す英語スコアとアメリカン大学での履修に必要な英語スコアが異なることにも注意してください。

また、新聞やテレビ、インターネットで取り上げられているニュースや国際問題に目を向け、その問題について疑問を投げかけ、自分の頭で考える習慣をつけましょう。最近は多くの国のニュースが英語で発信されており、スマートフォンやタブレットで読むことができます。とくに興味のある問題については、日本のメディアから発信される情報だけでなく、該当する国のメディアや関係諸国ではどのように伝えられているかを知ることも重要です。また、本入試の受験生は海外での生活ならびに学業を経験している方が想定されるため、自身が滞在されている（いた）国・地域の諸問題に対して

も高い関心を寄せ、考察することが重要です。そうすることにより国際社会の諸問題を多角的に捉える力が備わります。

最後に、卒業後の自分自身がこうありたいという将来像を描いてみましょう。そうすれば、自分が立命館大学およびアメリカン大学とのジョイント・ディグリー・プログラムでどのように学び、本学科での学びが自らの人生にとってどのような役割を果たすかが明確になるでしょう。

以上